

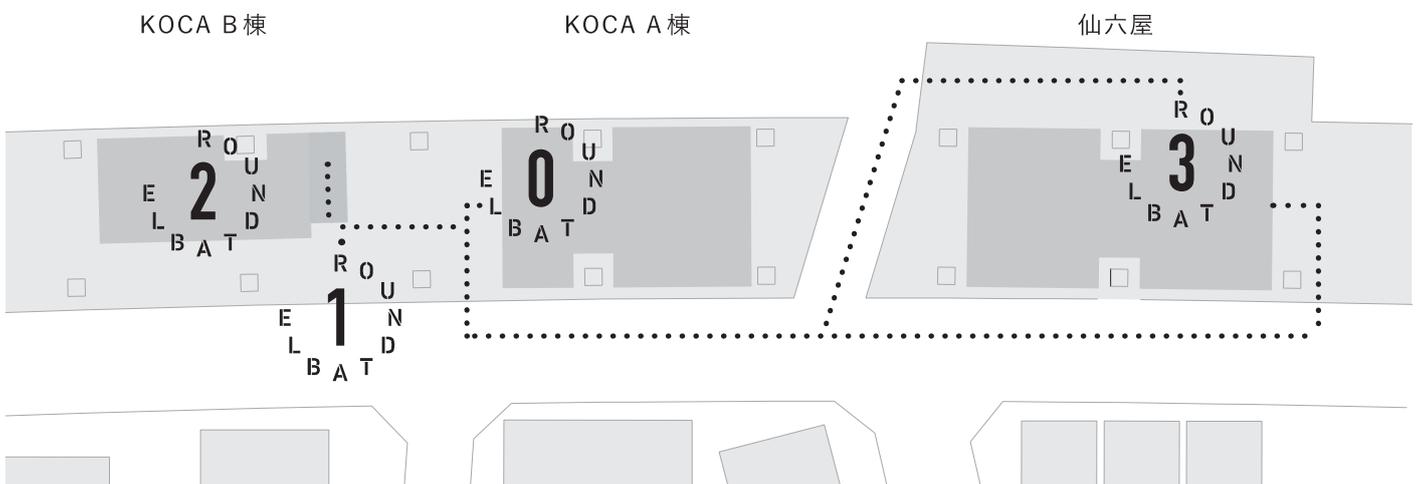
# ROUND TABLE

ラウンドテーブル2020は、町工場とクリエイターによるコラボレーション・プロジェクトです。町工場の持つ「実現力」とクリエイターの持つ「発想力」を掛け合わせることで、ものづくりの新しい可能性を探求します。相互のコミュニケーションを重視することで、通常の出発点とは異なる関係性を築き、その過程で、どのような「協働」や「作品」が実現するのかを試行錯誤する実験でもあります。参加を依頼した町工場3社は、大田区を拠点とする溶接、試験片製作、精密金属加工、設計・検査・組立などを専門とする職人／工場であり、クリエイター3組は様々な主体や文脈との対話を尊重しながら創作を実践し国内外で活躍するアーティストやデザイナーを選定しプロジェクトへの参加を依頼しました。

本展示は、昨年の10月から協働を開始した成果を発表する場であり、5ヶ月間の対話のプロセスを振り返りながら次の展開に向けて構想を膨らます批評と議論の場でもあります。またそれと同時に、2019年春に開業した京急線大森町・梅屋敷駅間の高架下開発事業「梅森プラットフォーム」のコンセプトを体現する企画でもあります。ラウンドテーブル2020は、これからの地域社会、ものづくり産業、文化活動に貢献する新たな駅間の開発モデルのあり方を模索するなかで生まれました。本展示の開催によって、少しでも地域や産業の価値に繋がるのであればとても嬉しく思います。

3組の創造的な協働の成果をお楽しみください。

## MAP



0 イン트로ダクション 1 実在する人物の幻想的なノンフィクション 2 実験 AtoE 3 積みぐら<sup>ム</sup>

\* 3/15 (月) のみ、3 (小松+米竹) のエリアを見学したい方はKOCA受付スタッフにお声がけください。

# COLLABORATORS

COLLABORATION 1

## 実在する人物の幻想的なノンフィクション

一ふりだしに戻る / AランチかBランチどちらかを食べる / 1回休み



### 金子未弥

人々の場所に関する記憶から、「場所」について考察し、「都市の肖像」を描くプロジェクトを行っている。2017年 多摩美術大学大学院 美術研究科博士後期課程 修了、博士号（芸術）取得、2018年 ART IN THE OFFICE 2018 受賞、2017年 Tokyo Midtown Award 2017 グランプリ受賞、2017年～ 黄金町エリアマネジメントセンターレジデンスアーティスト

### ハタノ製作所 / 波田野哲二

TIG溶接を主とした金属加工を行う。製造業からの受注に加え、デザイナーユニットと協働して要素技術を活かしたプロダクトを開発している。また、クリエイター向けに金属製品の少量受注生産と工場見学・溶接体験の受け入れを行なっている。おたオープンファクトリーをはじめとした大田観光協会の各種イベントに協力。自身が主催する「#町工場LT」で要素技術の魅力を伝える活動を行っている。キャッチコピーは「人を繋ぐ溶接工」。

COLLABORATION 2

## 実験 A to E



### 灰原千晶

人々のアイデンティカルな認識や共同体意識、社会が人々をコントロールするプロセスに関心を寄せ、日々の些細な出来事から受けたインスピレーションを、神話や文学、言葉遊びを交えながら、ビデオ、立体、写真などさまざまなメディアで作品化している。2011年から日本の現代社会に対する新たな視点を得るために、在日朝鮮人の作家と断続的な協働制作を行っている。2021年1月から京都市京セラ美術館「平成美術—うたかたと瓦礫」に出演。

### ムソー工業 / 尾針徹治

昭和25年に武蔵工業大学の大学発ベンチャーとしてスタートし、研究機関向けに実験用のものづくりを半世紀以上に渡って提供してきた。現在も実験の支援を続けるとともに、これからの日本を担う若手に興味を持ってもらうためにキツイ、汚い、危険の3Kと言われた町工場のイメージを「モテる、儲かる、認められる」の3Mへと変えるべく、さまざまな活動をしている。

COLLABORATION 3

## 積みg



### CEKAI / 小松健太郎

CEKAIは「いいものをつくる。」その普遍的な思想のもと、さまざまな領域の独立したクリエイターが能力を拡張するために集まった集合体。クラフトが持つ力を信じ、日々自社発信のデザインワークを行なっている。

小松 健太郎：2009年武蔵野美術大学卒業。アートショップPOMY、モーフィングを経て、クリエイティブアソシエーションCEKAIに所属。主な仕事に「東京地下ラボ by 東京都下水道局」「Adobe Make it! Student Creative Day」等。クリエイティブとコミュニティを軸にしたプロデュースを行う。

### エヌアンドエヌ / 米竹真央

エヌアンドエヌのコンセプト「ほしいものをカタチに」。金属部品加工をはじめ、豊富な経験と知見を活かし材料・加工方法の提案から最適な方法を見出し、海外も含めて100社を超す協力会社から適材適所で製作をすることを得意とする。設計部門もあり、開発品・機器・治工具等の設計～製造・据え付けまでを行う。最近では3Dプリンター、BLE、産業用ロボットなど研究開発にも取り組む。